

備前市事務事業評価シート

(平成22年度事業)

事業の概要			
事業開始年度	H17.3.22~		
総合計画	大項目	基本目標	01 安全で快適に暮らせるまちづくり
	中項目	基本施策	02 自然と共生するまちづくり
	小項目	施策	01 環境保全
事務事業名	03	水質汚濁防止事業	
根拠法令・規程等	水質汚濁防止法		
担当課(室)	環境課		
職・氏名	保全係長・久保山仁也		
電話	64-1822		
このシート作成に要した時間	3.0 時間		

事業の意図する成果とつながる成果指標を設定

事業の目的	
対象(誰・何に対して)	測定地点の水を利用する備前市民及び市内事業者
目的(何のために)	農作物への被害防止や生活環境の保全を図るため。
事業の意図する成果(どのような状態にしたいのか)	水質を保全し環境基準を達成する。市内各地の水質の状況を把握する。

事業の目的、対象、内容を考えながら妥当性を評価

事業の実績			
細事業名	事業の説明	優先度	
水質調査測定事業	河川・湖沼・海域等で、定期及び臨時(異常発見時)の水質調査を行い、状況把握をする。		
測定機器整備事業	測定機の整備を行なう。		
岡山三川水質汚濁防止協議会負担事務	吉井川水系の水質保全と汚濁事故の未然防止に努める。		
目的を達成するために実施した事業	苦情処理事務	河川・湖沼・海域等での水質汚濁に関する苦情を解決する。	
	金剛川浄化対策協議会運営事務	金剛川の水質改善を目的とする団体の運営	

事業費や受益者負担比率、単位当たりコストに留意しながら効率性を評価

事業費等		単位	平成20年度実績	平成21年度実績	平成22年度実績	
決算額	直接事業費		2,723	1,906	2,574	
	必要人員(人件費)	千円	0.55人	4,199	0.43人	3,598
	事業費		6,922	5,504	6,878	
	国県支出金					
	受益者負担					
	繰入金	千円				
その他()						
一般財源			6,922	5,504	6,878	
受益者負担比率	%		-	-	-	
結果指標名		単位	平成20年度実績	平成21年度実績	平成22年度実績	
結果指標	説明	環境水調査				
	結果指標量	事業	27	27	28	
	対前年比	%	-	100.0%	103.7%	
	活動コスト	円	1,434,930	1,457,316	1,109,514	
単位当たりコスト		53,146	53,975	39,626		

事業の成果					
成果指標名	年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度目標値
環境基準超過回数	目標値(A)	24	24	20	20
	実績値(B)	20	16	20	到達目標値
	達成率(B/A)	83.33%	66.67%	100.00%	20

成果指標設定の考え方・式や説明
環境水の水質測定で環境基準を超過した回数と目標値に対する比率
H20年度より「水質汚濁防止事業」を、水質汚濁防止事業と休止鉱山鉱害防止事業に分けているので、平成18年~平成19年の事業実績より金額が大幅に下がっている。

事務事業の評価		5段階評価(A~E)のランク基準 A:高い B:やや高い C:普通 D:やや低い E:低い	妥当性評価 <A~E>
妥当性の評価	市の関与の妥当性	<input checked="" type="checkbox"/> 市が実施するよう法令で義務づけられている <input type="checkbox"/> 法令で義務づけられていないが、実施しなければ大半の市民の日常生活に支障をきたす <input type="checkbox"/> 現在市が実施しているが、実施しなくても市民の日常生活に支障をきたさない <input type="checkbox"/> 事業の内容が一部の受益者に偏っている <input type="checkbox"/> 対象者は限定的であるが社会的弱者等を対象としている <input checked="" type="checkbox"/> 現在の市を取り巻く環境からも目的・意図する成果は妥当である <input type="checkbox"/> 事業開始当初の目的から変化してきている <input type="checkbox"/> 事業開始当初の目的は、ほぼ達成されている <input checked="" type="checkbox"/> 厳しい財政状況であるが、実施する必要がある <input checked="" type="checkbox"/> 市民・団体等から要望・要請が強い	A
	市民ニーズ	<input type="checkbox"/> 単位当たりコストは前年度と比較して改善している <input checked="" type="checkbox"/> 実施方法(派遣・委託等)を見直すことでコストを下げる余地がある <input type="checkbox"/> 事務の電子化や事務改善によりコストを下げる余地がある <input type="checkbox"/> コスト削減の努力はしているが、下がる余地は小さい <input type="checkbox"/> 受益者負担率は適正である <input type="checkbox"/> 受益者負担率を見直す余地がある <input type="checkbox"/> サービスを維持するためこれ以外、他に手段が見当たらない <input type="checkbox"/> 現在の手段は過剰なサービスのため、改善の余地がある <input type="checkbox"/> 最適な手段を求めて職場内で改善・研修に努めている	効率性評価 <A~E> B
有効性の評価	目的達成度	<input type="checkbox"/> 成果指標の設定は適切である <input checked="" type="checkbox"/> 成果指標の到達目標値は達成できそうである <input checked="" type="checkbox"/> 成果指標達成率は前年度と比較して向上している <input type="checkbox"/> 成果指標達成率は80%未満となっている <input type="checkbox"/> 現在の事業を継続しても成果指標の向上は期待できない <input type="checkbox"/> 法定事務・内部管理事務 であり成果は求めにくい <input checked="" type="checkbox"/> 事業について積極的にHPや広報等で情報提供している <input checked="" type="checkbox"/> 事業にはNPO、ボランティア団体等が参画している	有効性評価 <A~E> B

事業の目的やその数値目標がある成果指標に留意しながら効率性を評価

進行年度(H23年度)の改革改善内容						
状況	拡充	現状継続	見直し	縮小	整理統合	休止・完了
説明	引き続き、外部委託していた環境水調査を市担当職員で実施し、コスト削減に努める。					

総合評価		5段階評価(A~E)のランク基準 A:高い B:やや高い C:普通 D:やや低い E:低い
外部委託から直営に移行し、大幅なコスト削減ができた。全市的に環境水の値が良好な状態になっている傾向が見受けられる。	評価区分 <A~E>	B

平成24年度の方向性・取組目標						
方向性	拡充	現状継続	見直し	縮小	整理統合	休止・完了
取組目標	事業の継続性は高いものなので、今後もコスト意識を持ち環境保全に努めていく。					